

口永良部島

概 況

火山性地震の発生回数は 144 回と多い状態が続き、また、振幅の小さな火山性微動を 2 回観測するなど地下活動はやや活発な状態で推移しました。

地震・微動活動の状況

A 型地震の回数は 1 日あたり 0 ~ 10 回で月回数は 91 回(5 月:68 回)、B 型地震は 1 日あたり 0 ~ 6 回で月回数は 53 回(5 月:30 回)とやや多い状態が続きました(図 1、図 2、図 4 ~ 7)。振幅の小さな火山性微動を 2 回(5 月:15 回)観測しました(図 3、図 8、図 9)。

火口や噴気地帯の状況

5 日に海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力により、上空から火口や噴気地帯の観測を行いました。新岳火口、新岳火口北西側の噴気地帯および古岳火口では所々で白色・ごく少量の噴気が上がっていましたが、割れ目火口からの噴気は確認できませんでした(図 11 ~ 15)。また、3 月 19 日の観測で噴気を確認していた新岳火口底(図 12 のだ円内)では、噴気は確認できませんでした。

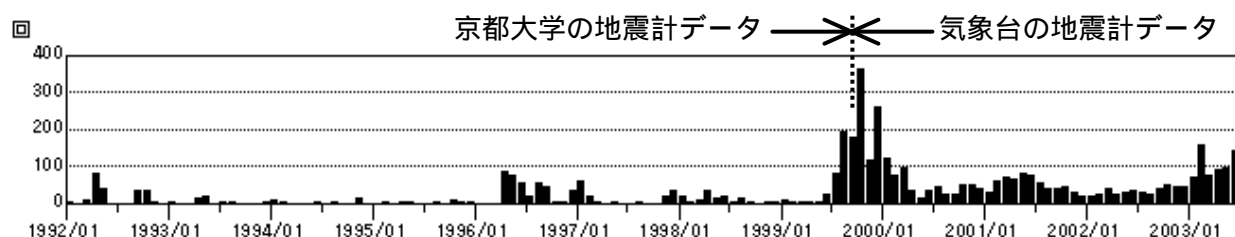


図 1 火山性地震の月別回数(1992 年 1 月 ~ 2003 年 6 月)
(1999 年 9 月 12 日までは、京都大学が口永良部島観測点の地震計で計数したデータを利用)

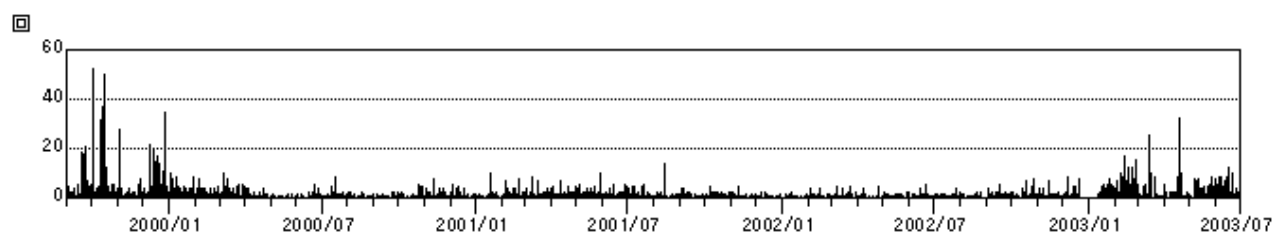


図 2 火山性地震の日別回数(1999 年 9 月 13 日 ~ 2003 年 6 月 30 日)

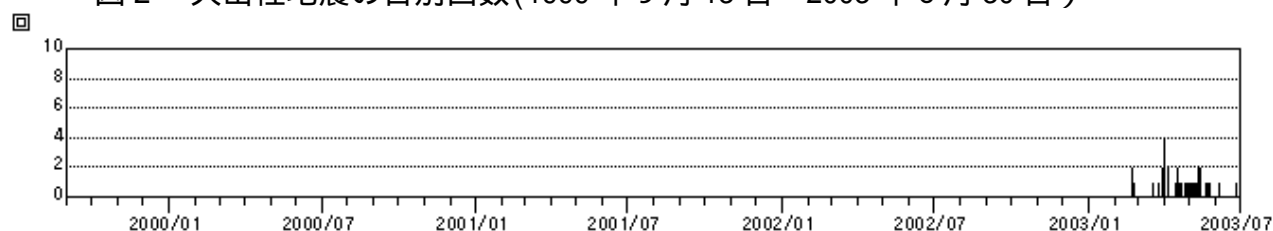


図 3 火山性微動の日別回数(1999 年 9 月 13 日 ~ 2003 年 6 月 30 日)

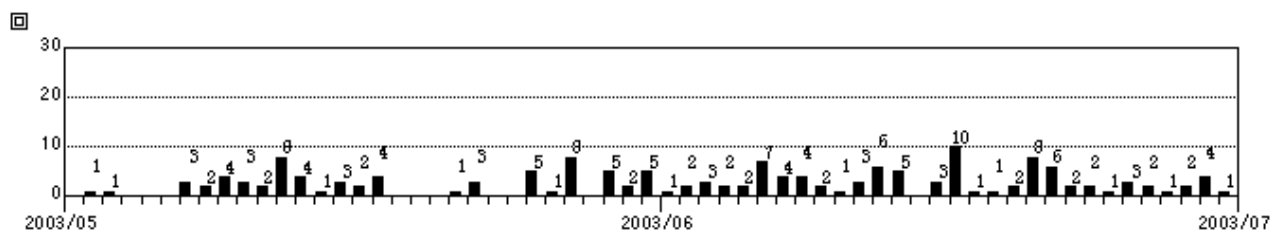


図4 A型地震の日別回数(2003年5月1日～6月30日)

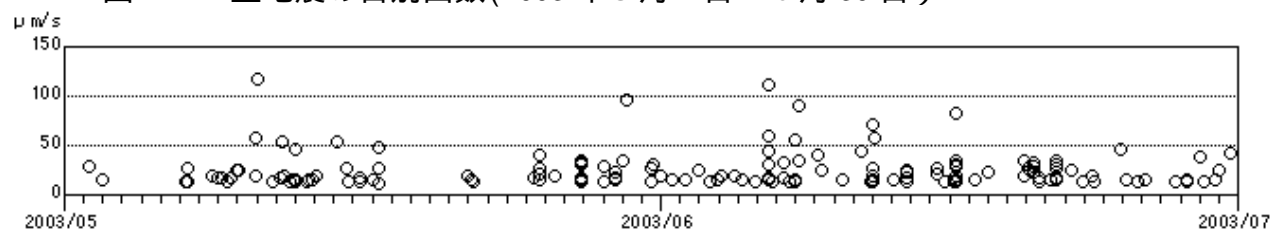


図5 A型地震の最大振幅(上下動)(2003年5月1日～6月30日)

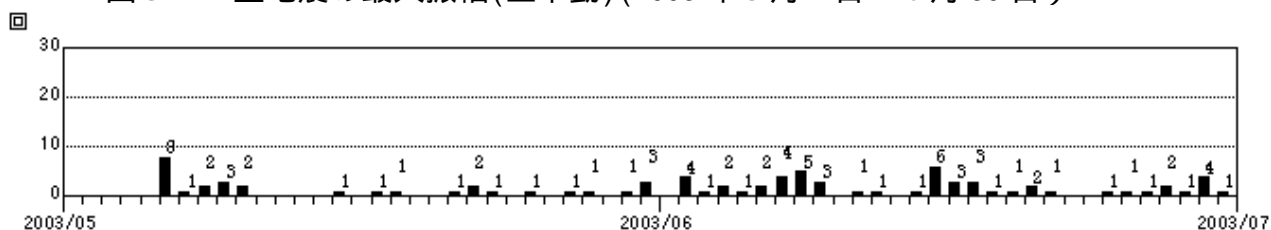


図6 B型地震の日別回数(2003年5月1日～6月30日)

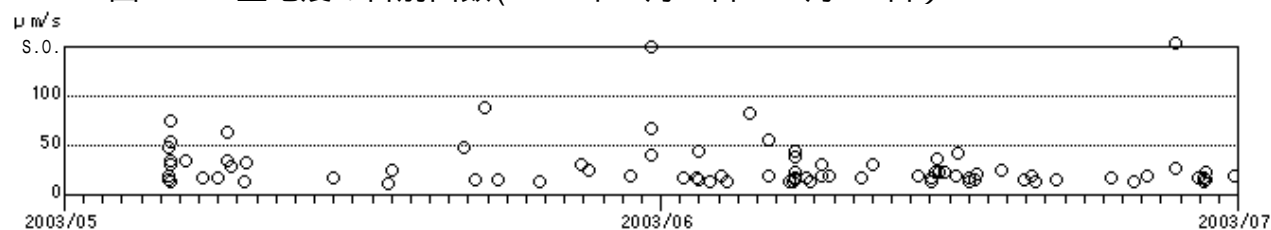


図7 B型地震の最大振幅(上下動)(2003年5月1日～6月30日)

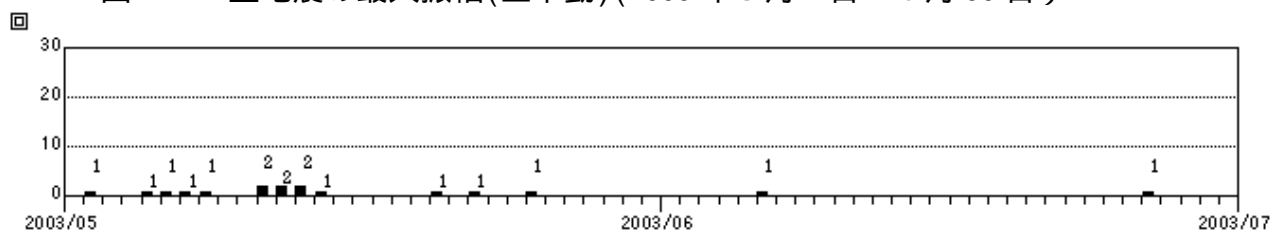


図8 火山性微動の日別回数(2003年5月1日～6月30日)

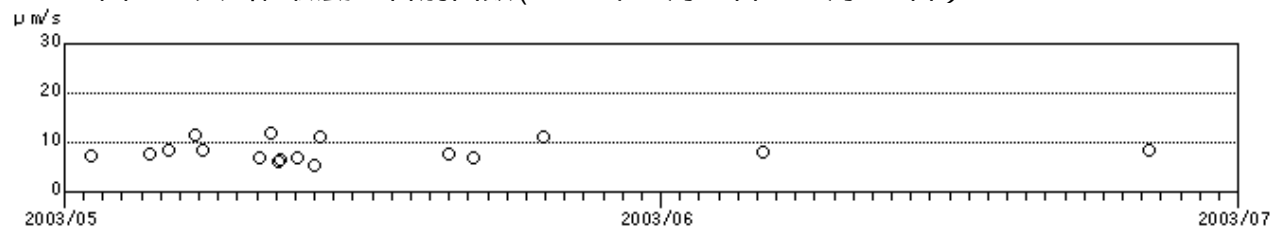


図9 火山性微動の最大振幅(上下動)(2003年5月1日～6月30日)

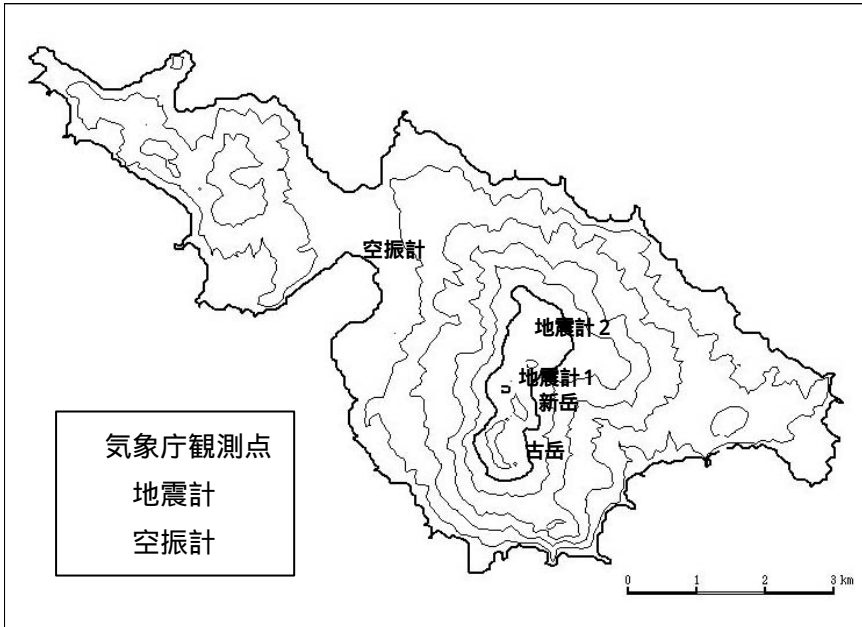


図 10 観測点位置図



図 11 火口位置図



図 12 南側から見た新岳火口
所々にごく少量の噴気があるが、
火口底 (だ円内) にはない



図 13 西側から見た火口壁北西側
だ円内に噴気を確認



図 14 北北東側から見た古岳火口
矢印の先にごく少量の噴気
口永良部島



図 15 割れ目火口と側火口
噴気は確認できなかった